

総合評価の結果

基本方針	評価（外部要因についても記載）	
【基本方針 1】 脱炭素型のまちを目指します	B (指標平均：2)	新型コロナウイルス感染症からの経済の回復等の要因により、エネルギー消費量が増加したことで対前年比と比較し、温室効果ガス排出量が増加することとなった。一方で、2013年度比では減少傾向となっているが、目標達成に向けては一層の削減取組が必要であるため、エコハウス設備設置助成金や次世代自動車等購入費助成や事業者等との連携により、域内の再エネ導入・省エネの推進を図りながら温室効果ガスの排出削減に取り組んでいく。 ※最新の数値である2021年度までの削減実績を元に評価しています。
	S：0 A：0 B：3 C：0	
【基本方針 2】 人と自然が調和して豊かな恵みが得られるまちを目指します	A (指標平均：3.3)	目標通り順調に進捗している。ただし、「生物多様性の価値や現状を理解している市民の割合」は、参考値を大きく上回っているものの、調査方法が途中で変更になったことが値に影響していると考えられる。このため、実績値について今後も注視し、必要に応じて参考値を見直す必要がある。 また、「東京都レッドリスト（本土部）2020版掲載種の市内確認種数」は、1種確認ができなかったが、単年のみの調査結果では、市内で確認できなくなったという判断を行うことは難しいと考える。
	S：1 A：2 B：0 C：0	
【基本方針 3】 循環型のまちを目指します	A (指標平均：3)	市民へのごみ減量・3R推進の啓発や集団回収の奨励と生ごみ処理機購入補助、民間事業者等との協働による食品ロス削減にかかる取組等の展開により、市民1人1日当たりの燃やすごみ排出量は減少傾向にある。そのほか、物価高騰による物の消費低迷も、ごみの発生抑制に影響していると推測される。また、多摩川衛生組合で発生した焼却灰を最終処分場においてエコセメント化することにより、埋め立て処分量を0に抑えることができている。
	S：0 A：2 B：0 C：0	
【基本方針 4】 安全・安心・快適に暮らせる文化的なまちを目指します	B (指標平均：2.5)	水質、大気、騒音・振動の環境基準適合率については、2018年度から騒音レベルが環境基準値を超過し続けている地点が全12か所のうち3か所存在する。市レベルでの改善が困難であり、現状のままでは目標達成は難しい状況である。一方、まちなみや景観がよく保全されていると感じている市民の割合は、2020年度以降毎年増加しており、順調に進捗している。
	S：1 A：0 B：0 C：1	
【基本方針 5】 協働・連携のための環境が整ったまちを目指します	- (指標平均：)	
	S： A： B： C：	